



立教大学

特別支援学校における
肢体不自由児への
「みる」スポーツ支援の確立
～「みるパラ」プロジェクト～

立教大学 松尾ゼミナール A班

○鎌田美希 上野貴裕 内山愛彩
大西薫 嶋梨乃 八重優真 吉田純也

目次

緒言

現状
課題

提言

総括

第二期スポーツ基本計画

第3章には「スポーツを『する』『みる』『ささえる』
スポーツ参画人口の拡大と、そのための人材育
成・場の充実」(スポーツ庁, 2017)を施策としてい
る。また、障がい者スポーツの施策目標は「障害
者をはじめ配慮が必要な多様な人々が、スポーツ
を通じて社会参画することができるよう、社会全体
で積極的に環境を整備することにより、人々の意
識が変わり(心のバリアフリー)、共生社会が実現
されることを目指す。」(スポーツ庁, 2017)とされ
ている。

⇒「参加」から「参画」へ

「参加」＝「集まりに加わる。

すでにあるものに加わる。」

「参画」＝「事業・計画に加わる。

計画段階から加わる。」

障がい者のスポーツへの参画



立教大学



⇒ スポーツへの参画 ⇒

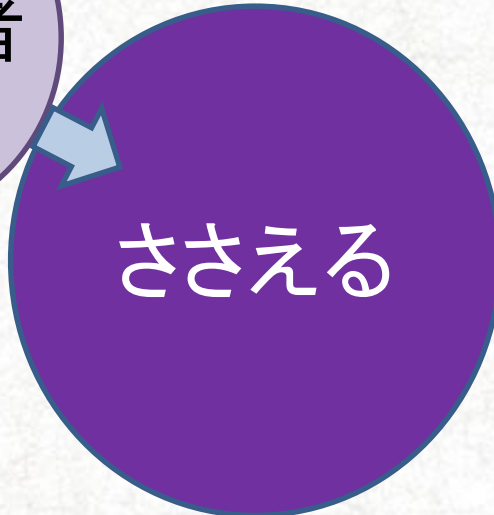
共生社会



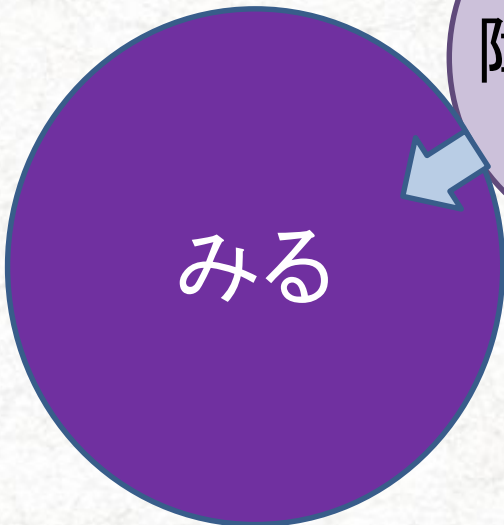
する



障がい者

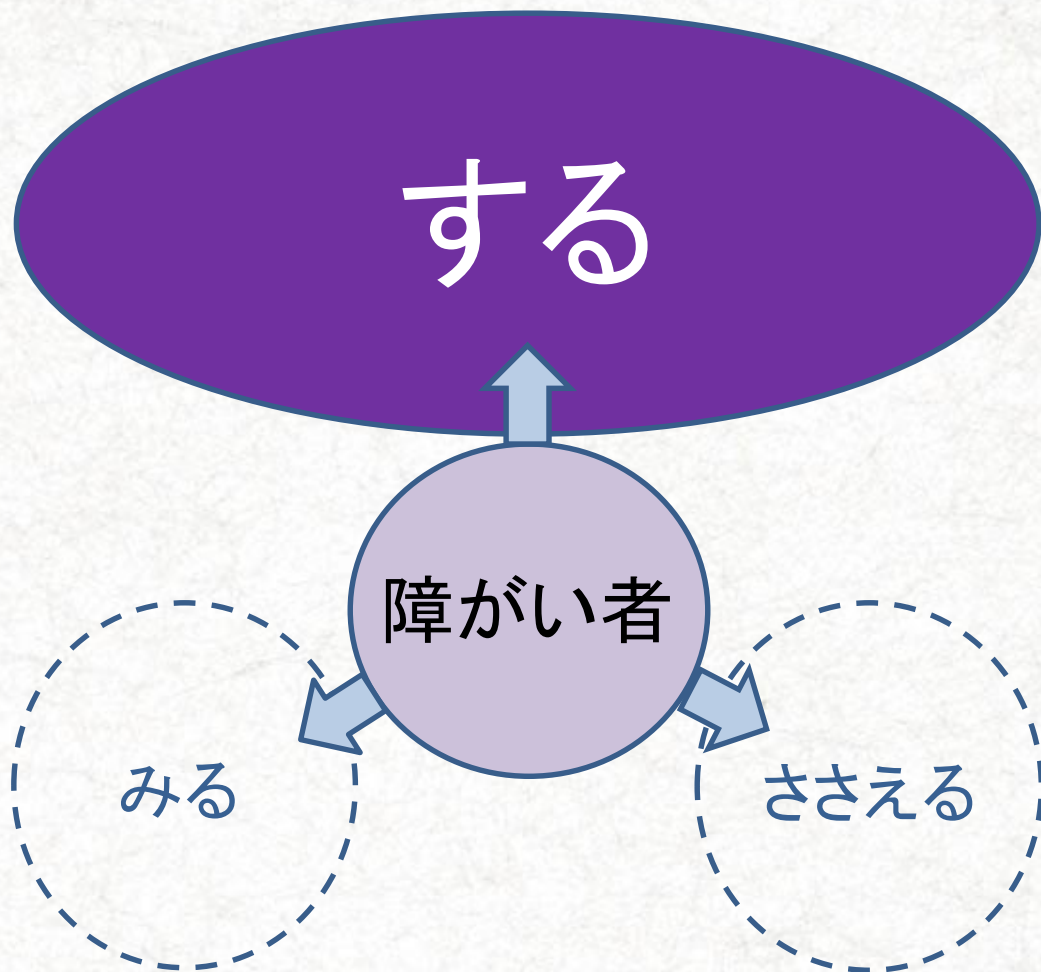


ささえる



みる





支援策における
「する」への重視

「みる」「ささえる」の支援がほとんどなされていない

「する」スポーツ支援の重視

- 「これまで『するスポーツ』の視点から報告が行われてきているが、障害者の『みるスポーツ』という視点からの研究は、ほとんど行われていない。」(近藤・安井, 2013)



「する」スポーツばかりが
重視されてきたのでは？

「みる」スポーツの可能性

- ・「スポーツ振興の観点から考えた場合、『する』だけではなく、『観る』・『支える』の一体的な支援が重要」である。(スポーツ庁, 2016)
- ・とりわけ障がい者にとって「心理的ハードルが低いと考えられる、『観る』スポーツへの取組強化は重要」(スポーツ庁, 2016)

特に肢体不自由児にとっては「重度の運動障害がある場合、その障害により『する』スポーツへの参加が制限されてしまうことがあり、『みる』という視点に立つことで参加の機会を広げること」(近藤・安井, 2014)が期待されている。

障がい者スポーツ観戦率の現状



立教大学

障がい者スポーツ直接観戦率

肢体不自由者
(車椅子必要) ▷ 1.4%

肢体不自由者
(車椅子不要) ▷ 0.9%

(笹川スポーツ財団, 2016)



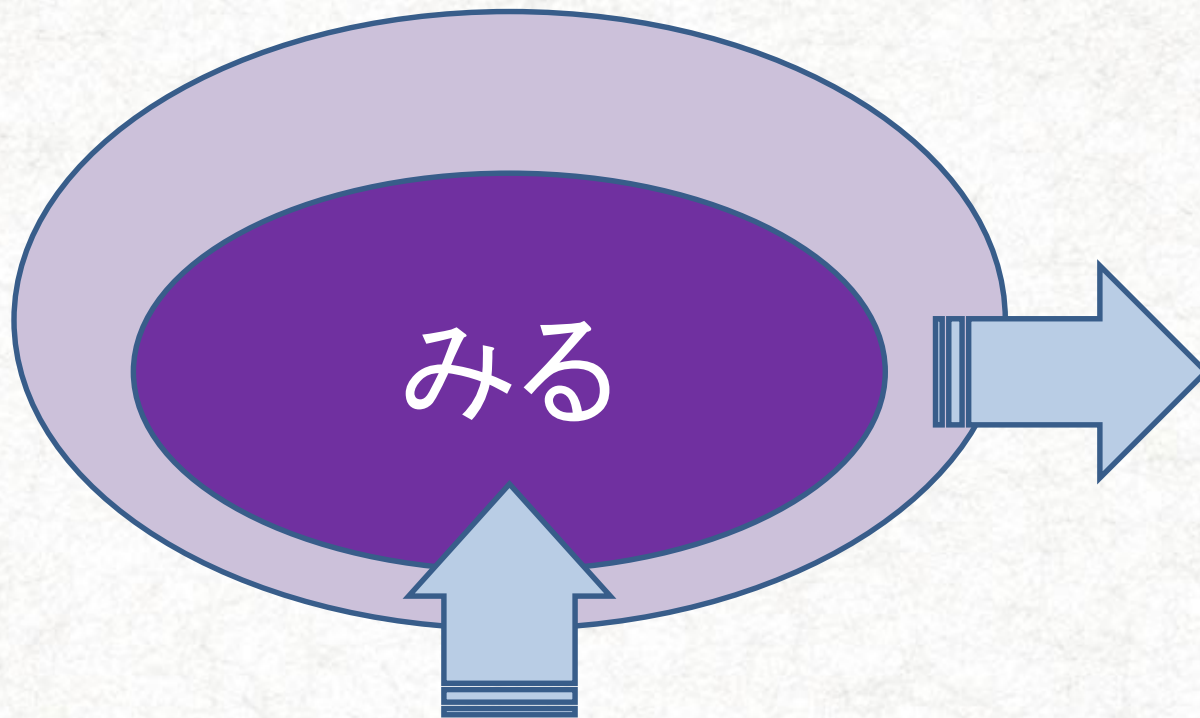
「みる」スポーツについて、
肢体不自由児にアプローチすることは
必要不可欠である。

「参加」から「参画」へ

参加



参画



スポーツへの
参画

肢体不自由児

第二期スポーツ基本計画

障がい者スポーツの具体的施策には「全ての特別支援学校が、在校生・卒業生・地域住民がスポーツに親しめる地域の障害者スポーツの拠点となることを支援することにより、身近な地域で障害者がスポーツに親しむ環境を整備する。」(スポーツ庁, 2017)とされている。

特別支援学校の
肢体不自由児に、
障がい者スポーツへ
参画するきっかけとしての
「みる」スポーツに着目



「みる」スポーツの魅力①

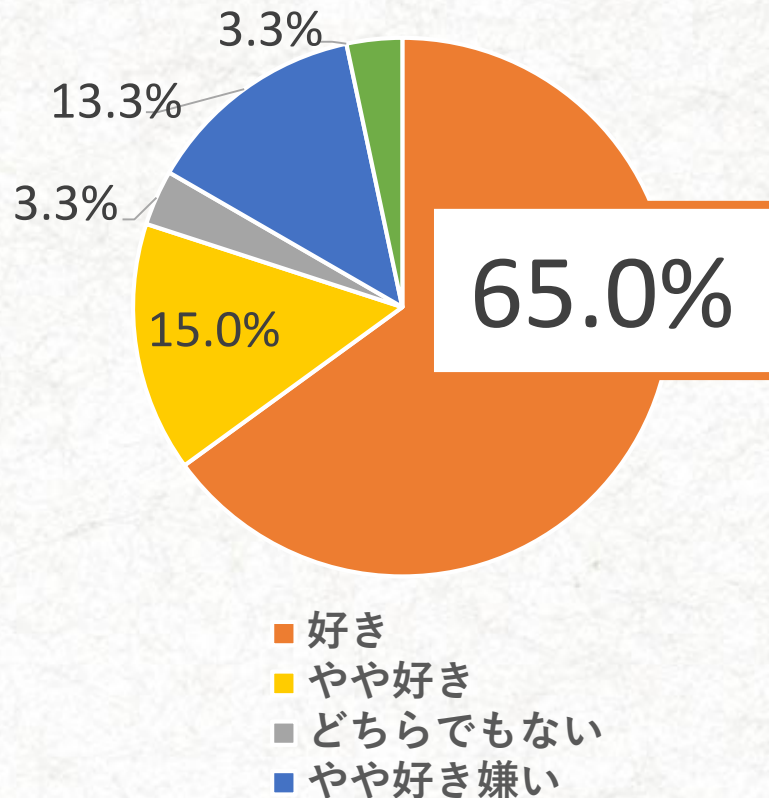
「自分の好きな選手の一挙手一投足に一喜一憂し、共に喜び共に悲しむ、といった経験は、その人の人生を豊かなものにするものでしょう。つまりQOL (人生の質)を高める、というわけですね。」(日本障害者リハビリテーション協会 情報センター, 2003)

「みる」スポーツの魅力②

「日本ではW杯を機に女性のフットサル人気が高まっていることが報告されている。このような現象は『みる』を通し、『する』に至った例だと考えられ、スポーツを『みる』ことがスポーツを『する』ようになる過程において大きな役割を果たしている」(林ら, 2004)

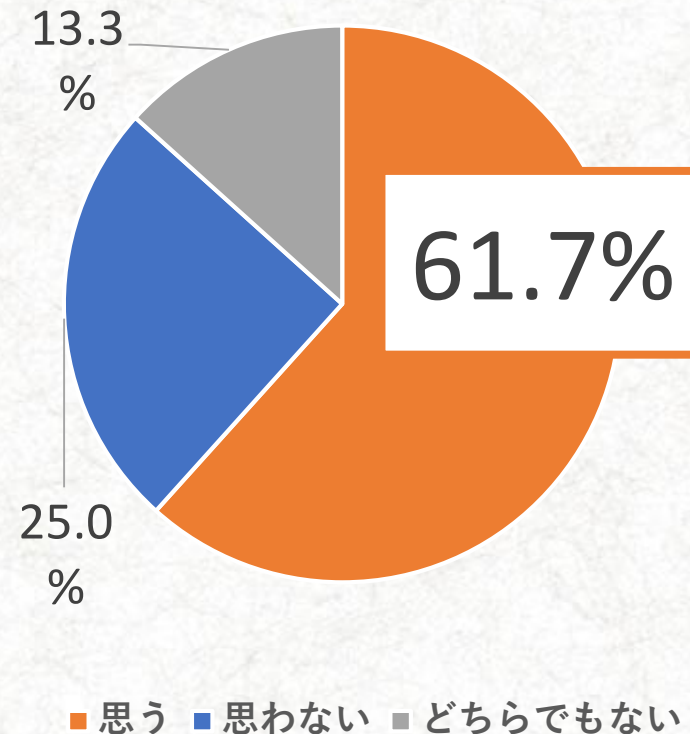
肢体不自由児の「みる」スポーツ

スポーツをみることは好き



近藤・安井(2014)「スポーツをみることは好き」に基づいて作図

もっとスポーツを みたいと思う



近藤・安井(2014)「もっとスポーツをみたいと思う」に基づいて作図

⇒ みたいけど、みれていない

保護者の「しる」機会の不足 立教大学

障がい児が「レクリエーション活動やスポーツを通じ余暇を楽しむためには、親をはじめとした養育者自身の認識と理解、そして情報収集能力や特別な行動力、環境に対しての準備等が必要不可欠である。」(石田ら, 2016)

保護者の理解が重要！

保護者が障がい者スポーツの内容やその活動の場に対する情報と知識が乏しい現状にある。(中島, 2012)

例) スポーツ活動を楽しむために、十分配慮が必要な補装具や車椅子の使い方がわからない。(芝原ら, 2013)

障がい者スポーツにおける 支援策の現状

実際に行われている
取り組みは？

- ①JFAこころのプロジェクト
- ②あすチャレ！スクール



実際に行われている取り組み 立教大学

① JFAこころのプロジェクト

638回実施(2018年3月18日時点)

② あすチャレ！スクール

379校実施(2018年度8月時点)



出典：日本サッカー協会「夢の教室」概要



出典：日本財団パラリンピックサポートセンター
あすチャレ！スクール

イベントや講演会の現状

「比較的新しい概念である『パラリンピック教育』については、特に国内ではそもそも定義や目的が必ずしも十分に理解されておらず、単発的なイベントとしてのパラリンピアンによる講演会や、障害者スポーツの体験講座等にとどまっている現状がある。」(大林, 2015)

得られた課題

障がい児は障がい者スポーツをみたいのにみれていない

保護者が障がい者スポーツに対し、「しる」機会が少ない

体験会やイベントが単発的であり、持続的な取り組みにつながっていない

「みる」スポーツにおいて参加から参画への取り組みがなされていない

インタビュー調査概要

- 対象：特別支援学校A校、B校 計2校
A校教諭2名、B校教務主任1名 計3名
- 時期：2018年9月13日、14日
- 方法：半構造化インタビュー(1人当たり約40分)
- 理由：特別支援学校の教員は子どもと保護者の意見を身近に聞くことができると同時に、パラリンピック教育を指導する立場であり現状と課題が明らかにできると考えた。

調査結果から得られた知見

1. 子どもたちは障がい者スポーツに「ふれる」きっかけが身近なものだと興味・関心を持ちやすい。
2. 障がい者スポーツ観戦のきっかけは子どもの意見だけでなく保護者の理解が重要である。
3. 現在のパラ教育がキャラクター投票などの表面的な教育にとどまっており、「みる」につなげていない。
4. 障がい者スポーツを「みる」ことが重要だが、実際に「みる」機会がほとんどない。
5. 可能であれば障がい者スポーツ選手に来てほしい。

まとめ 提言のポイント

子どもたちが障がい者スポーツに興味・関心を持ち、主体的な障がい者スポーツ活動のための身近なきっかけとして、「しる」、「ふれる」機会をつくる。

「しる」、「ふれる」機会として障がい者スポーツ選手と交流をする。

子どもたちだけでなく保護者も障がい者スポーツを「しる」、「ふれる」機会をつくる。

「しる」、「ふれる」、「みる」が連続した支援策を行う。

⇒「みる」スポーツの「参加」から「参画」へ

インタビュー調査から



こどもたちに
障がい者スポーツを
みさせてあげたい



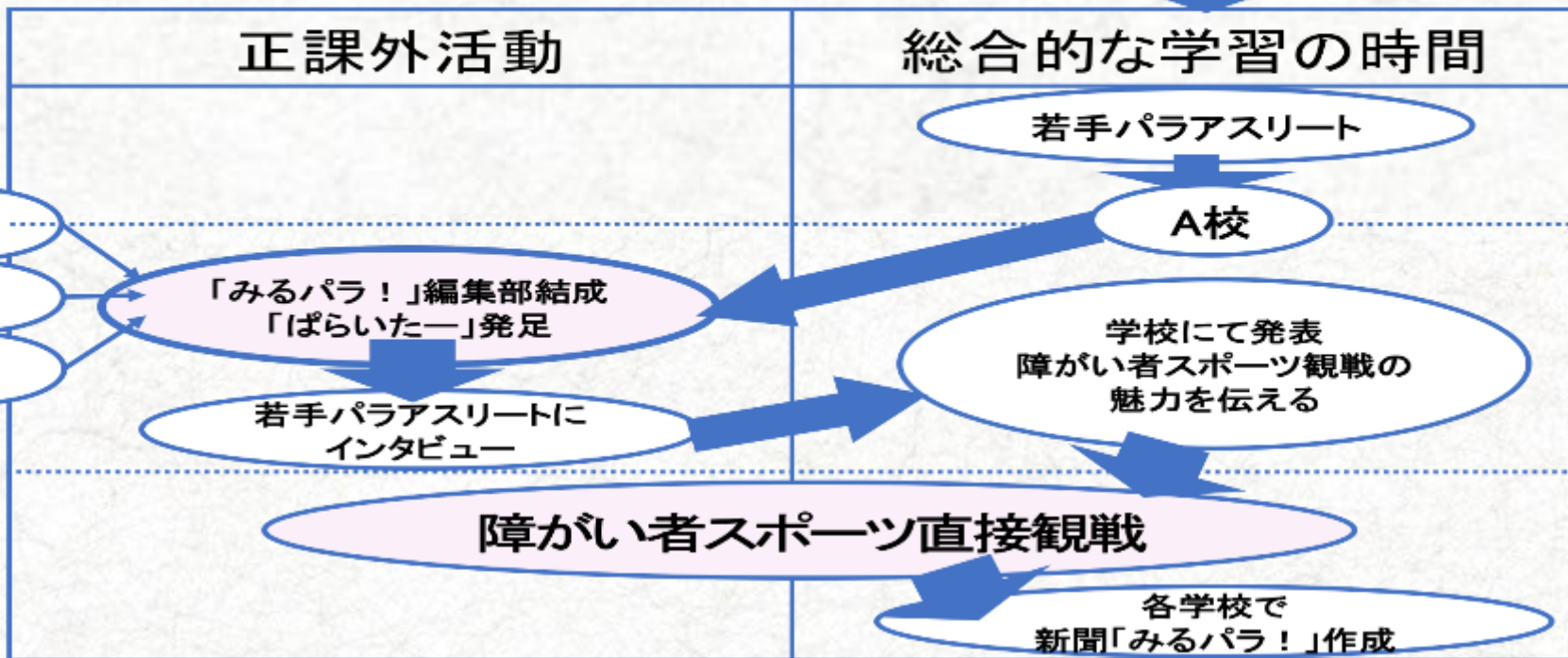
⇒ 「みる」スポーツを通じ、スポーツに「参画」
する経験を少しでも増やしたい！

「『みるパラ！』 プロジェクト」



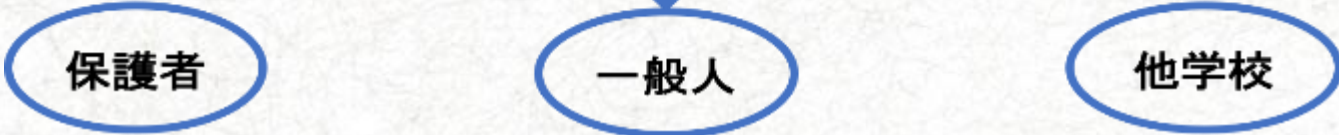
日本財団パラリンピック
サポートセンター主催

パラリンピアンと若手パラアスリートによる体験会
～みるスポーツを100倍楽しむ方法～



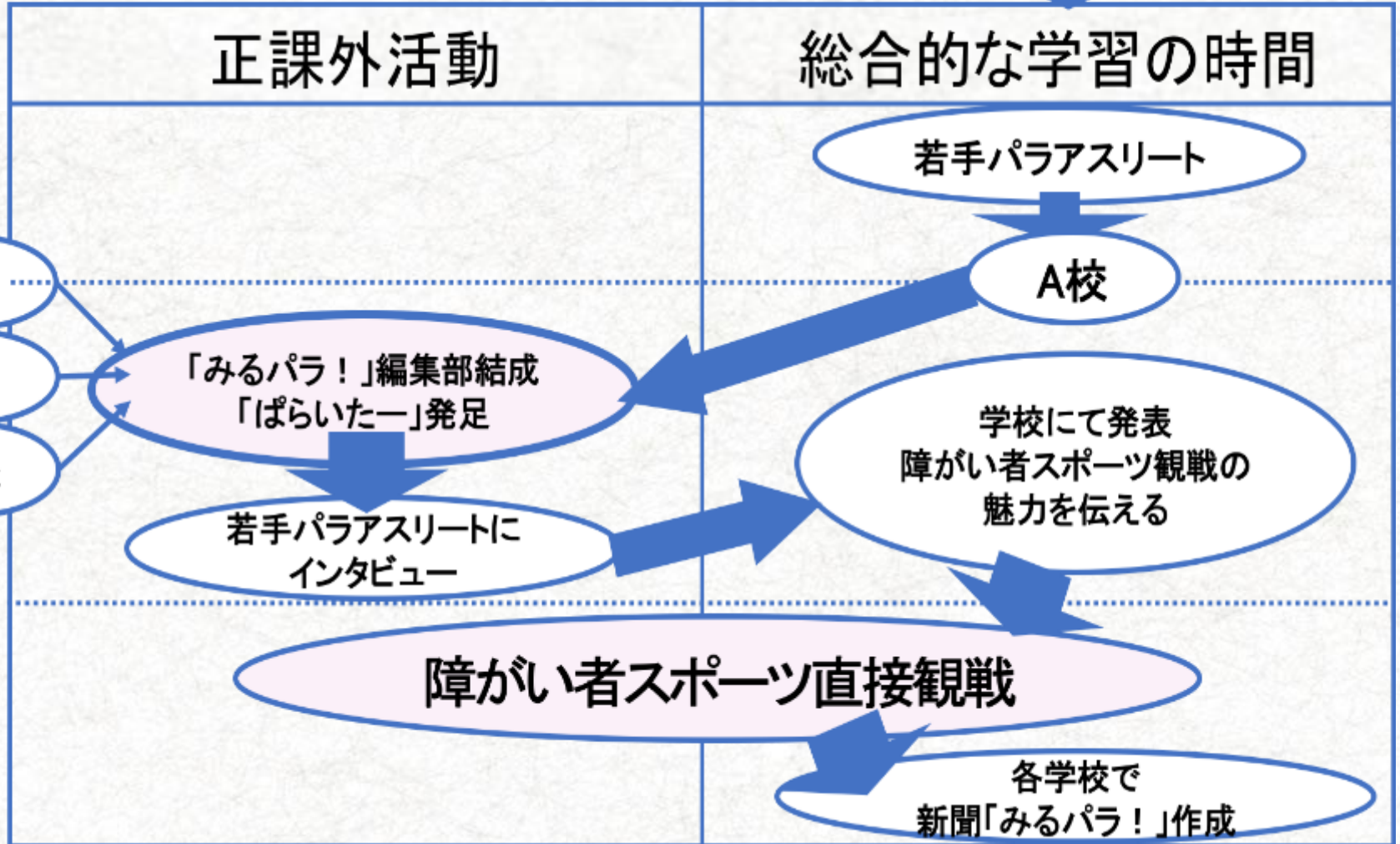
「『みるパラ！』プロジェクト」
全体図

日本障がい者スポーツ協会広報部
「みるパラ！」編集部SNSアカウント



日本財団パラリンピック
サポートセンター主催

パラリンピアンと若手パラアスリートによる体験会 ～みるスポーツを100倍楽しむ方法～



日本障がい者スポーツ協会広報部
「みるパラ！」編集部SNSアカウント

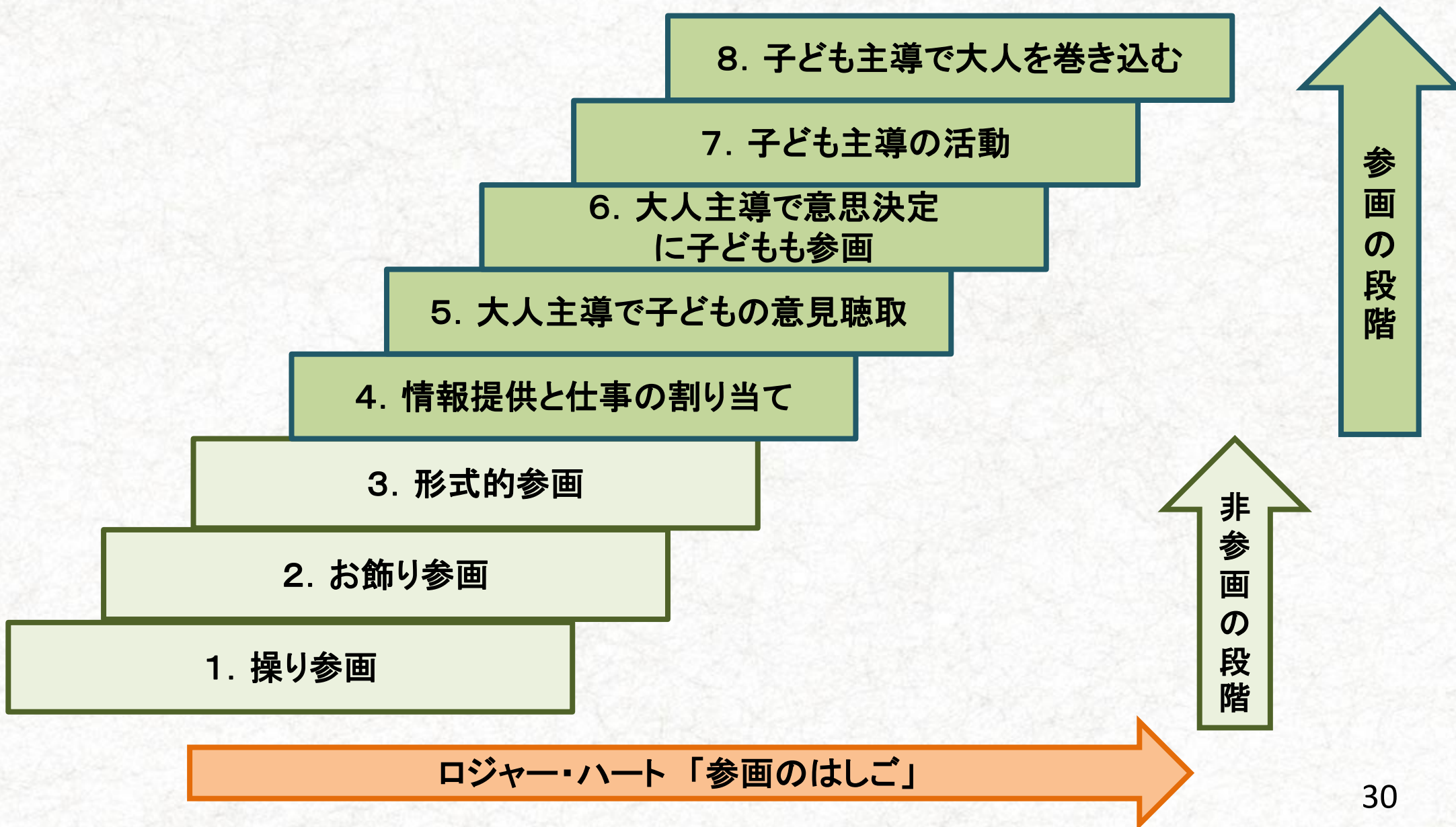
発信

保護者

一般人

他学校

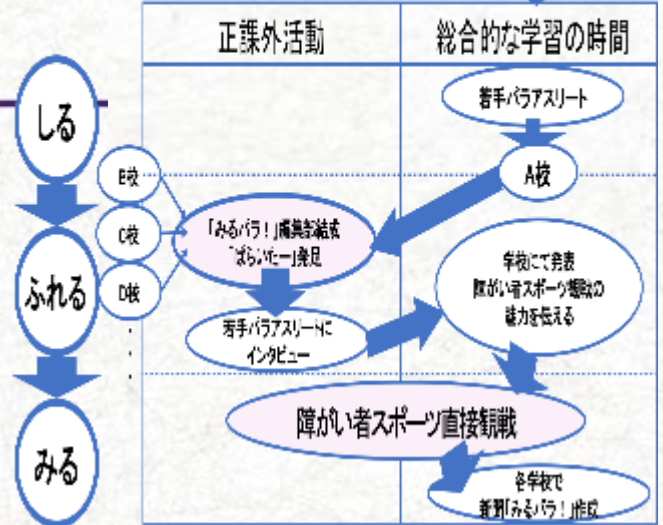
ロジャー・ハート「参画のはしご」 立教大学



パラリンピアンと若手パラアスリートによる体験会 ～みるスポーツを100倍楽しむ方法～

日本財団パラリンピックサポートセンター主催
パラリンピアンと若手パラアスリートによる体験会
～みるスポーツを100倍楽しむ方法～

- 3. 形式的参画
- 2. お飾り参画
- 1. 操り参画



**デモン
ストレーション
20分**

間近で
「みる」迫力を感じる。
障がい者スポーツなら
ではの技を紹介する。

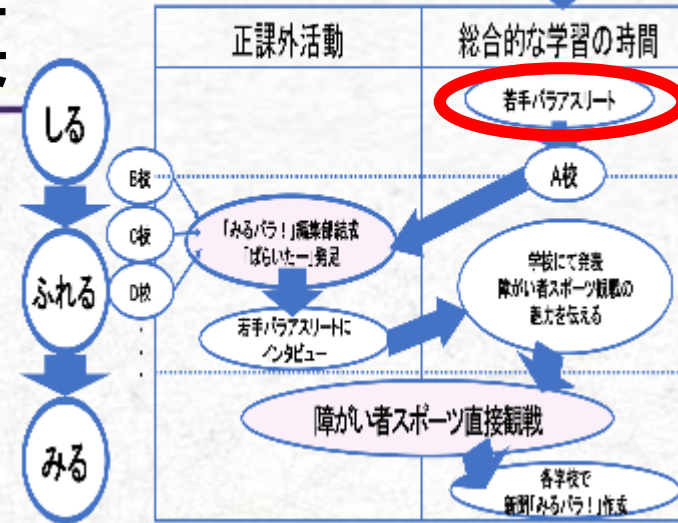
**質問コーナー
10分**

子どもだけでなく
保護者も質問できる。

**障がい者
スポーツ体験
30分**

道具を触ってみたいり、
障がい者スポーツを
できる範囲で体験する。

若手パラアスリートによる授業



3. 形式的参画

2. お飾り参画

1. 操り参画



第1回目

学んでみよう！
障がい者
スポーツの
ルールを知る！

第2回目

質問してみよう！
選手の経験談

第3回目

応援してみよう！
障がい者
スポーツの
応援方法
会場でのルール

若手パラアスリートにした理由

障がい者スポーツの
将来を見据えて

○ 若手パラアスリートの
発信力が求められている。

- ◆ 若手パラアスリートが情報発信のスキルを身につける・向上させる機会を提供する。
- ◆ 若い年齢層同士で交流を深め、子どもが障がい者スポーツに親しみやすい環境作りをする。

「ぱらいたー」のお仕事

A校 B校 C校 D校

各学校から
希望者を募る

「みるパラ！」編集部
子ども記者
通称：ぱらいたー



他学校合同で、
取材の仕方、
カメラの使い方を
学校の先生から学ぶ

5. 大人主導で子どもの意見
聴取

4. 情報提供と仕事の割り当て

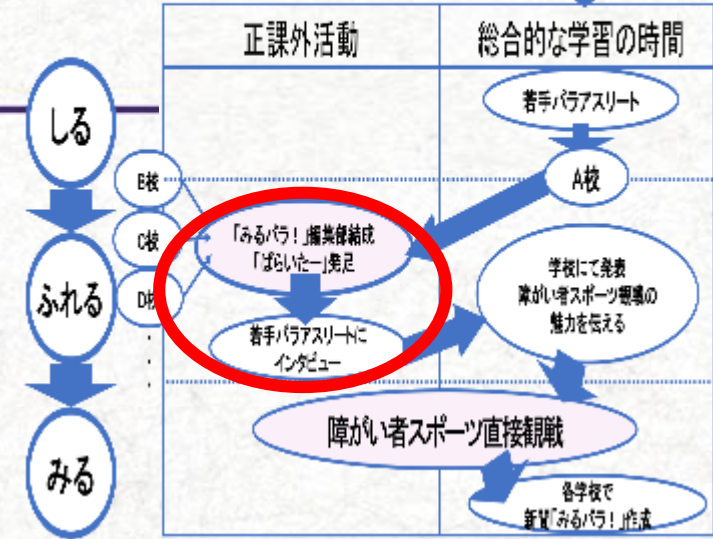
3. 形式的参画

若手パラアスリートの
練習場所へ



＜インタビュー内容＞

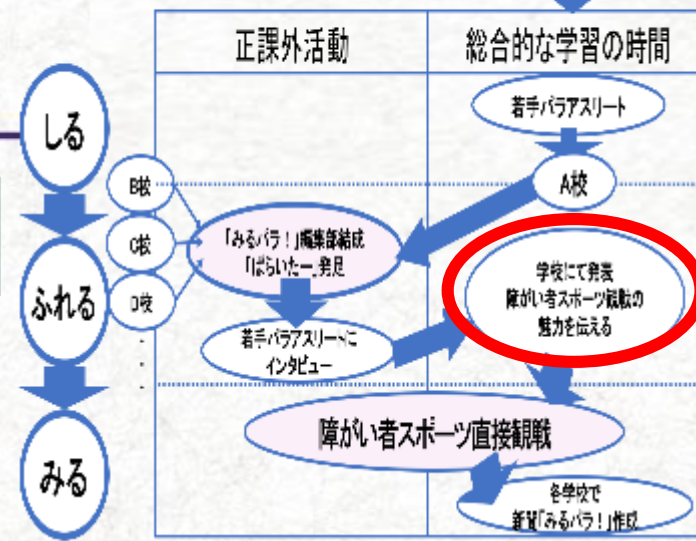
- 試合の意気込み
- 練習方法
- 試合の見どころ など



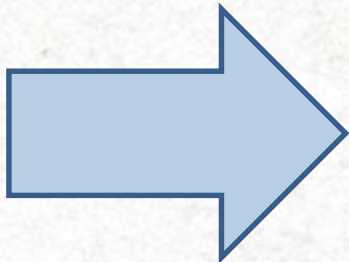
日本財団パラリンピックサポートセンター主催
 パラリンピアンと若手パラアスリートによる体験会
 ～みるスポーツを100倍楽しむ方法～

学校で発表→観戦仲間を増やす

8. 子ども主導で大人を巻き込む
7. 子ども主導の活動
6. 大人主導で意思決定に子どもも参画



総合的な学習の時間や朝礼の時間を利用してぱらいたーは取材内容を発表



試合観戦の仲間を増やし、みんなで観戦へ!

観戦会場まで移動



各学校で、
子ども、保護者、先生は学校のバスに
乗り、移動する。

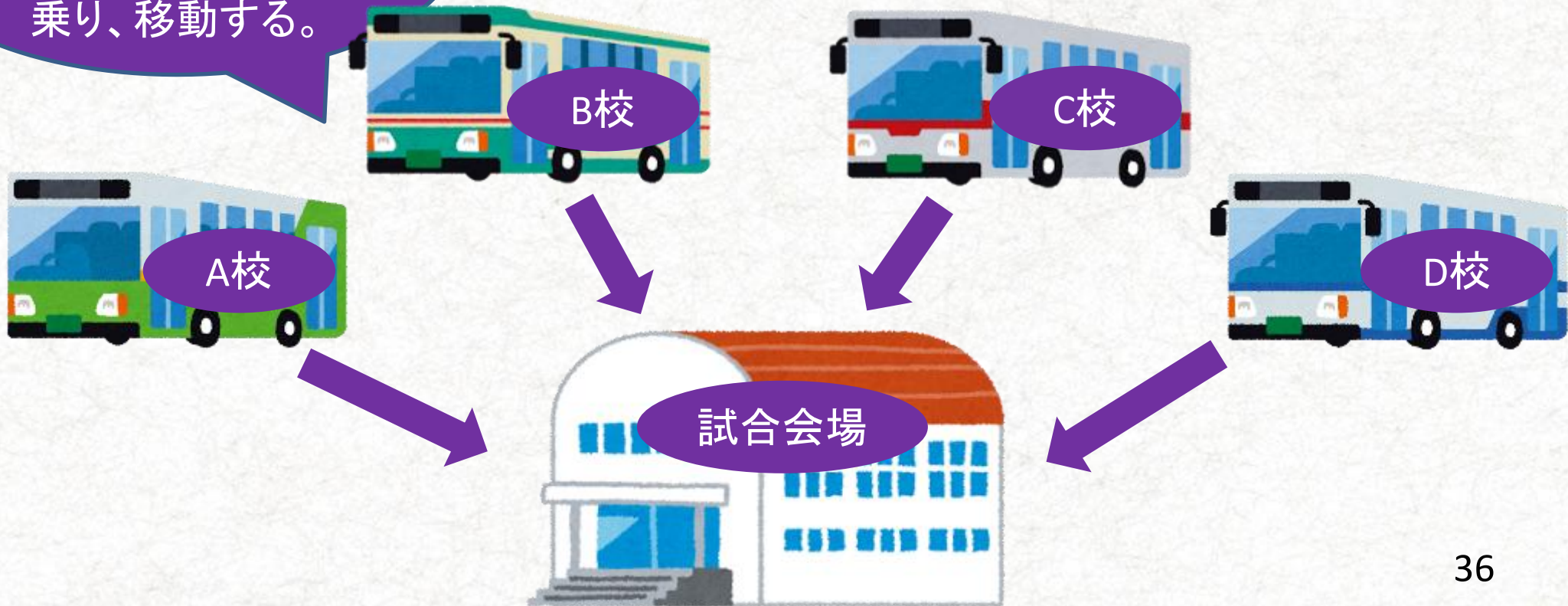
8. 子ども主導で大人を巻き込む

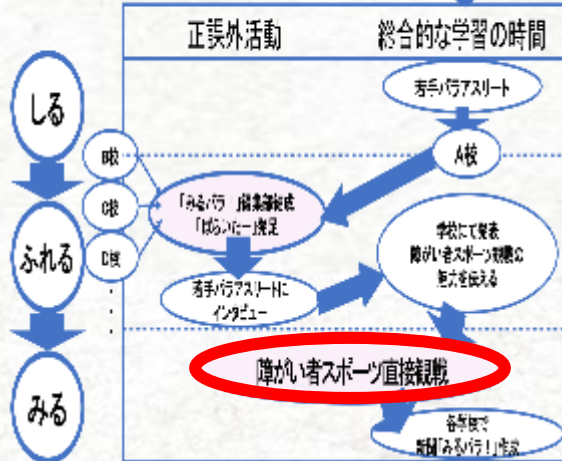
7. 子ども主導の活動

6. 大人主導で意思決定
に子どもも参画

しる
ふれる
みる

正課外活動	総合的な学習の時間
B校 C校 D校 「みるパラ!」編集部構成 「ぼらいたー」発足 若手パラアスリートに インタビュー	若手パラアスリート A校 学校にて勇姿 障がい者スポーツ観戦の 魅力を伝える 障がい者スポーツ直接観戦 各学校で 新聞「みるパラ!」作成





実際の障がい者スポーツ観戦

- 8. 子ども主導で大人を巻き込む
- 7. 子ども主導の活動
- 6. 大人主導で意思決定に子どもも参画

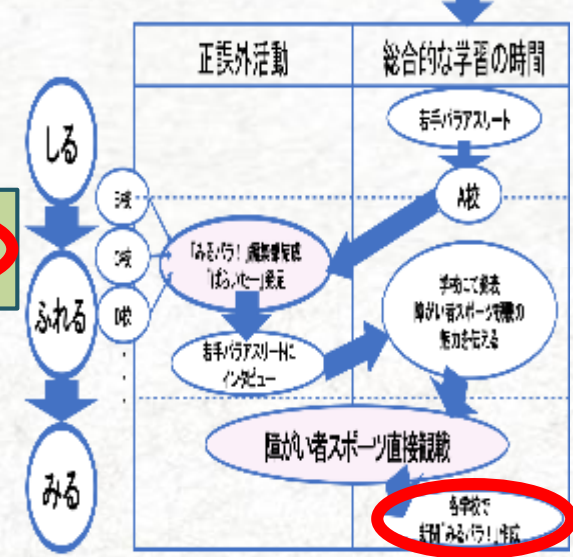
日本障がい者スポーツ協会



観戦スペース
 (ぱらいたーと他生徒)
 ぱらいたーは取材での学びをもとに、他の生徒に試合の解説をする

記者スペース
 (ぱらいたー数名)
 大人の記者に混じって、選手を間近で撮影する

パラスポーツ新聞「みるパラ！」作成



ぱらいたー



8. 子ども主導で大人を巻き込む
7. 子ども主導の活動
6. 大人主導で意思決定に子どもも参画



ぱらいたーが撮影した写真

ぱらいたーが書く内容

- ・観戦したスポーツの特徴
- ・観戦前のインタビュー内容
- ・観戦時の感想 等

グループで協力して新聞を作成する

「みるパラ！」編集部の SNSアカウントの作成

8. 子ども主導で大人を巻き込む

7. 子ども主導の活動

6. 大人主導で意思決定
に子どもも参画

日本障がい者スポーツ協会

- * SNSを通して、支援活動を外部に随時報告
- * パラスポーツ新聞「みるパラ！」をHPに掲載

発信

保護者

- ・パラスポーツへの理解
- ・子どもへのサポート

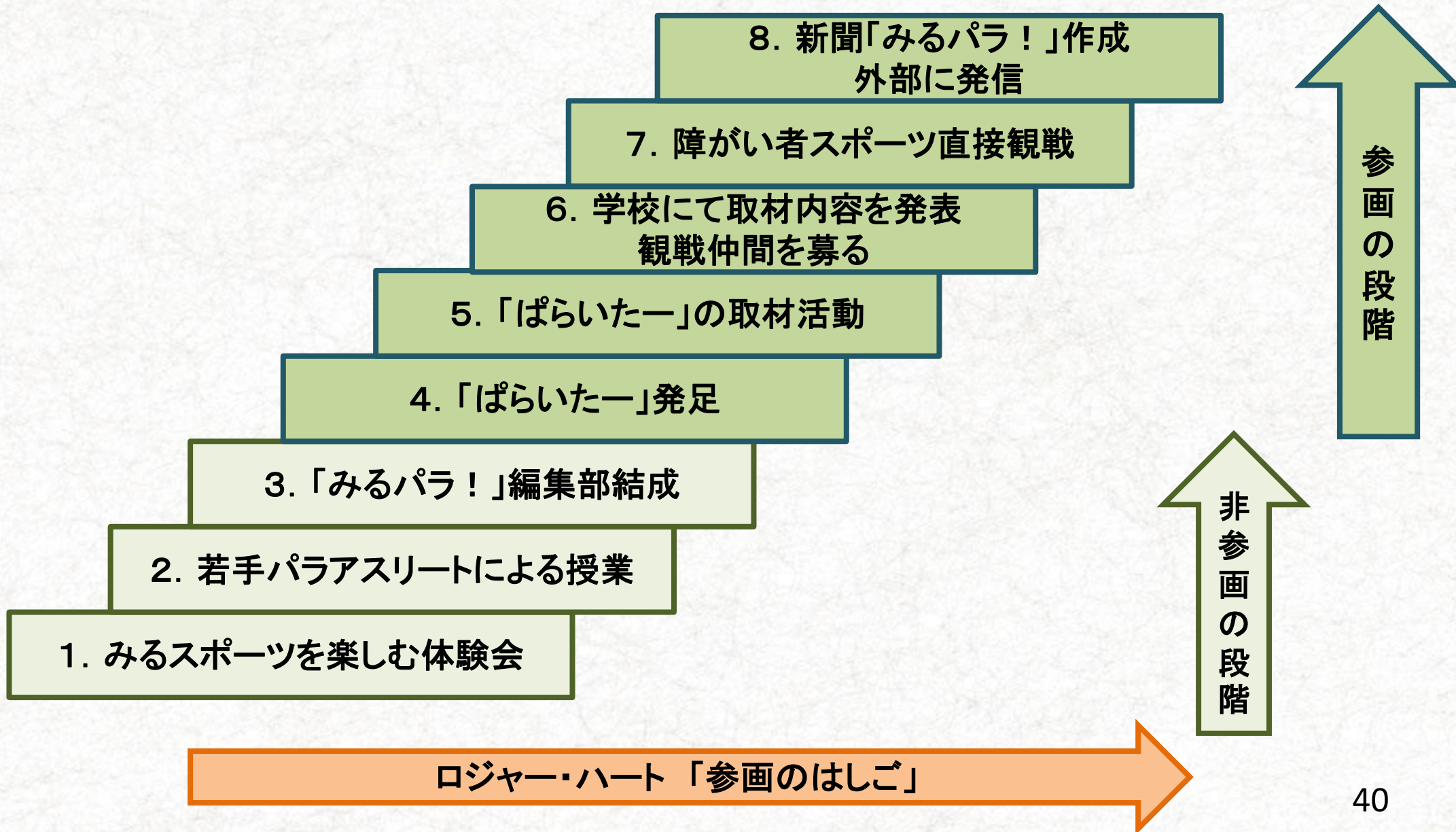
一般人

- ・パラスポーツへの理解
- ・パラスポーツ観戦
- ・ボランティア参加の普及

他学校

- ・パラスポーツへの理解
- ・活動への参加

ロジャー・ハート「参画のはしご」 支援策バージョン



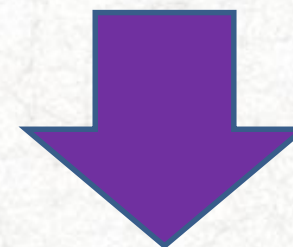
具体的なスケジュール例 ～ボッチャ大会を見に行こう！～

※2018年度の大会日程を参考とする

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
体	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	総	24	25
26	27	28	29	総	31	1

体

5/12 みるスポーツを100倍楽しむ方法
～ボッチャ編～



総

5/23.30.6/6
若手パラアスリートによる学校での授業
週1回、3週分 各学校で実施

具体的なスケジュール例

2019 6月

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	31	1
2	3	4	5	総	7	8
9	10	11	12	13	正	15
16	17	18	19	20	正	22
23	朝	25	26	27	28	29
30	1	2	3	4	5	6

正

6/14

各校合同のみるパラ！編集部結成
取材の方法を学ぶ



正

6/21

ぱらいたーによる取材



朝

6/24

各校で取材の発表 観戦を促す

具体的なスケジュール例

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	観
観	8	9	10	総	12	13
14	15 海の日	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

観

7/6~7/7

埼玉県ボッチャ選手権大会

場所 埼玉県障がい者交流センター

10:30

各学校にて集合

学校のバスに乗り、移動

11:10

現地到着

観客スペースへ移動

11:30~13:00

観戦(ぱらいたーは合間に取材をする)

14:00

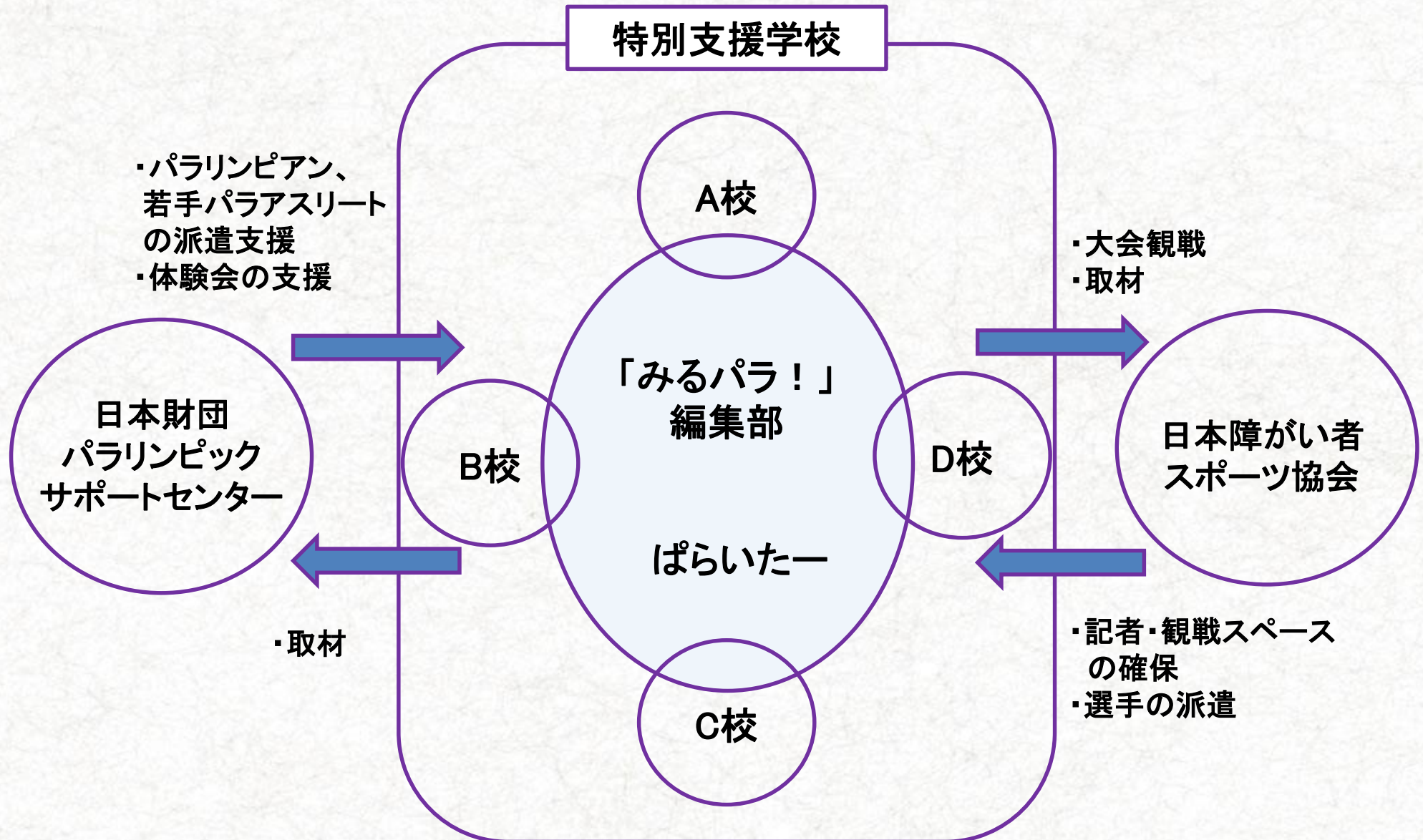
各学校に到着

解散

総

7/11「みるパラ！」新聞作成

運営体制



運営予算の内訳

広報費	ポスター、「みるパラ！」新聞印刷代 30,000円
「『みるパラ！』 新聞」製作費	A3用紙 20枚入108円×4校=432円 写真現像代 1枚6円×10枚(1校10枚想定)×4校=240円
体験会費	参加者保険 1名50円×40名×4校分=8,000円
観戦費	記者用のレンタルカメラ 1台9,900円×4校=39,600円
謝金	体験会のパラリンピアン(JCBギフトカード 1人20,000円)と 若手パラアスリート(JCBギフトカード 1人5,000円)への謝礼8名分 (20,000円×4人)+(5,000円×4人)=100,000円 授業の若手パラアスリートへの謝礼4名分3日間 (JCBギフトカード 1日5,000円) 5,000円×4人×3日=60,000円
交通費	体験会(講師) 1人2,000円×8人=16,000円 授業(講師) 1人2,000円×4人×3回=24,000円

【全体予算】

ぱらいたーと
他生徒
40名を想定
{(ぱらいたー5人,
他生徒5人)×4校}

計278,272円

公益財団法人
キリン福祉財団
の助成金を利用
～上限30万円～

期待される効果

「みる」スポーツの
確立

リバーズ
エデュケーション

若手アスリートの
情報発信スキルと
モチベーション向上

障がい者スポーツの
観戦率向上

「みる」スポーツの
「参加」から「参画」へ

主な参考文献

- 林直也ら(2004)「W杯の観戦が日本と韓国における中学生のサッカー行動へ与える影響に関する研究-『みる』スポーツと『する』スポーツの関連に着目して-」
- 石田哲士ら(2016)「障害児の余暇としてのレクリエーション活動やスポーツをとりまく実態調査 ～滋賀県下特別支援学校肢体不自由児の養育者へのアンケート調査～」
- 近藤尚也・安井友康(2014)「『重度肢体不自由者』のスポーツ参加と『みる』スポーツ」北海道教育大学紀要, 教育科学編, 65(1):403-412.
- 大林太郎(2015)「2020年東京大会に向けた『オリンピック・パラリンピック教育』に関する考察-IPCの『パラリンピック教育』の定義と過去の事例分析から-」日本財団パラリンピック研究会紀要, 2:69-79.
- 笹川スポーツ財団(2016)「地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」, 笹川スポーツ財団.
- スポーツ庁(2017)「第2期スポーツ基本計画」, スポーツ庁.